

カスタムアクションからのバッチファイルの実行

検証したバージョン: InstallShield 2010 Premier Edition

対象プロジェクト: 基本の MSI, InstallScript MSI プロジェクト

概要

基本の MSI プロジェクト・InstallScript MSI プロジェクトのカスタムアクションでは、VBScript, InstallScript 形式のカスタムアクションはサポートされておりますが、バッチファイル(.bat)に関しては、直接実行することができません。この記事では、カスタムアクションよりバッチファイルを実行する場合の設定手順について説明いたします。

A) .bat ファイルをサポートファイルとしてインストーラに含めます

“サポートファイル”とはインストール時にのみ必要となる外部の作業ファイルをインストーラに含める場合に使用する領域となります。この手順ではサポートファイルとして、msg コマンドよりメッセージ表示を行う “test.bat”を含めます。(test.bat は“msg * バッチが実行されました”と一行のみ記載されているシンプルな bat ファイル)

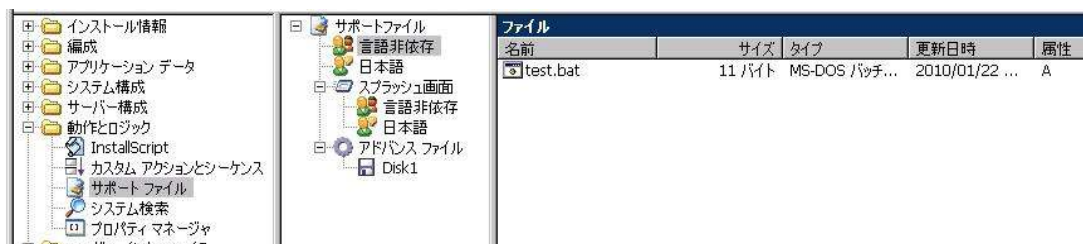
test.bat

```
msg * バッチが実行されました
```

- 1.[動作とロジック]—[サポート ファイル]ビューにて、[サポートファイル]のツリーを展開して、[言語非依存]を選択します
- 2.[ファイル]ペインを右クリックして、[ファイルの挿入]を選択します。ファイル選択のダイアログが立ち上がりしますので、“test.bat”を選択します



- 3.test.bat がサポートファイルとしてインストーラに追加されることを確認します。



B) .bat ファイルを実行するカスタムアクションの作成

次に、サポートファイルへ追加した.bat ファイルを実行するカスタムアクションを作成します。

1. [動作とロジック]—[カスタム アクションとシーケンス]ビューにて、[カスタムアクション]を右クリックして[新しい EXE]—[ディレクトリを参照するパス]を選択します。



2. カスタムアクションの一覧に新規カスタムアクション「NewCustomAction1」が追加されるので、任意の名称に変更します。(この手順では「caRunBatFile」に設定)

3. カスタムアクション「caRunBatFile」にて、以下の設定を行います。

設定プロパティ名	設定内容	説明
作業ディレクトリ	SystemFolder	ターゲットシステム上の cmd.exe を使用するため SystemFolder 識別子を使用して、system32 フォルダを作業フォルダに指定
ファイル名とコマンドライン	cmd.exe /C "[SUPPORTDIR]#test.bat"	cmd.exe の引数として、SUPPORTDIR プロパティを指定してサポートファイル内の test.bat ファイルを指定
スクリプト内実行	即時実行	
インストール実行シーケンス	次の後: InstallFinalize	
インストール実行条件	NOT Installed	初回インストール時のみ実行される条件を指定

※インストールファイルとして含めた.bat ファイルを実行する場合は、[INSTALLDIR]プロパティを使用して実行することも可能です。例: cmd.exe /C "[INSTALLDIR]test.bat"

4. カスタムアクションの設定が行えたことを確認します。



C) ビルド・実行

ビルドを行い、実行時の動作を確認します。

1. ツールバーの[ビルド]ボタンをクリックして(手順 2 の画像の赤い丸のついたボタン)ビルドを実行します。ビルドは[F7]キーからも実行可能です。
2. ツールバーの[実行]ボタンをクリックしてビルドしたインストーラを実行します。(画像の青い丸の付いたボタン)



3. インストールを進めていくと、インストール完了ダイアログが表示される直前のタイミングで test.bat が実行され、msg コマンドによるメッセージ表示が行われます。

